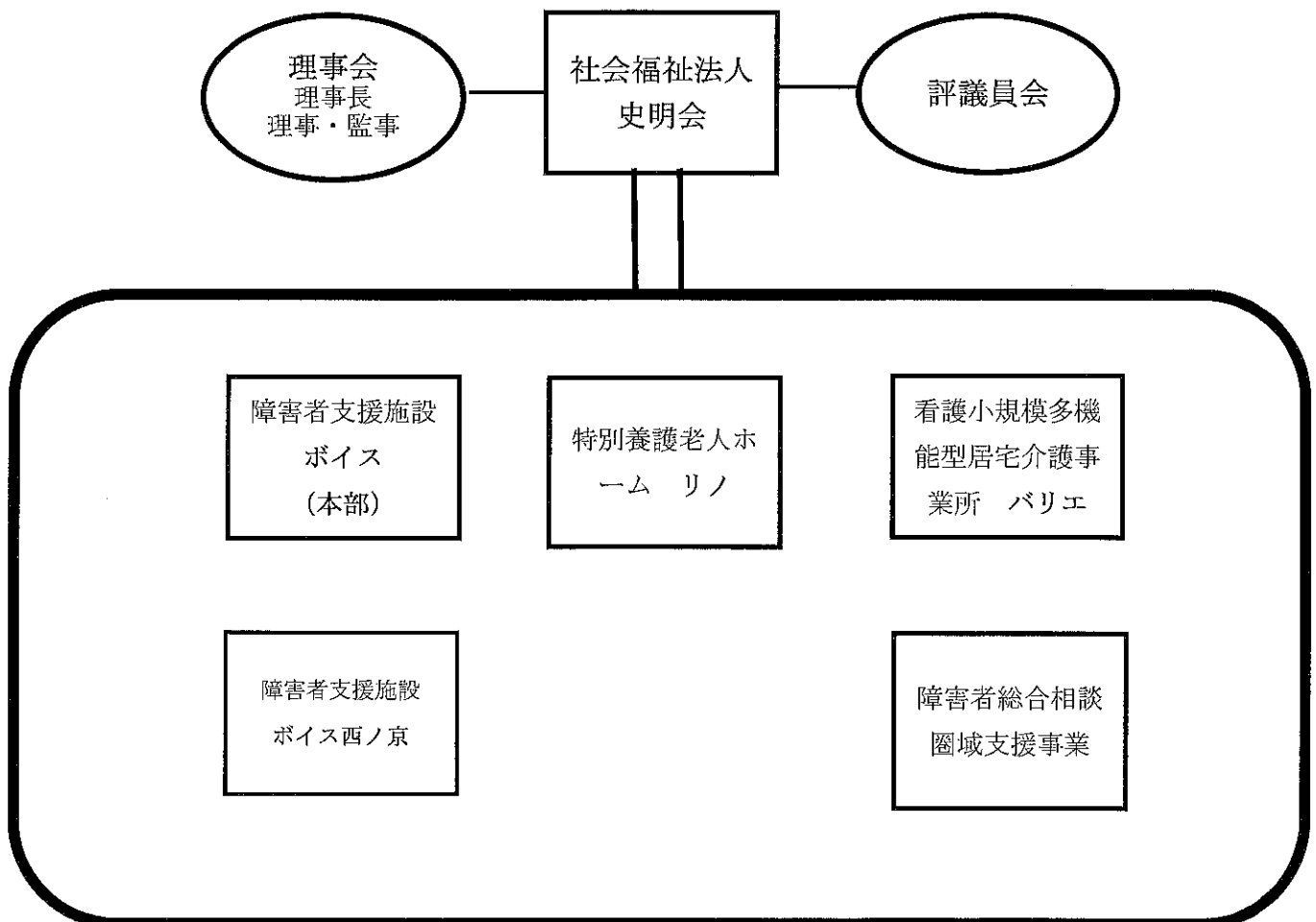


社会福祉法人史明会

令和2年度 事業報告書

法人本部

法人理念に基づき、多種多様な介護・福祉サービス利用者のニーズに応えることができるような事業展開を行うため、奈良市七条西町2丁目に地下1階地上3階建ての総合型福祉施設の整備を行い、奈良県総合医療センター前という立地条件を活かし、退院後のリハビリや高齢者、障害者等に総合的に活用できる福祉施設の整備を行い、1階部分を、平成30年4月に奈良市から地域密着型サービスである看護小規模多機能型居宅介護事業所バリエとして事業を開始した。2階、3階については、入所施設として、活用できるように、奈良市に要望を継続的行った結果、奈良市から奈良市第5期障害福祉計画(平成30年～令和2年度)に則った計画とみなされ、認可の承諾が得られたことから、令和2年5月より工事に着手し、同年10月にボイス西ノ京を設置した。



障害者支援施設ボイス・障害者支援施設ボイス 西ノ京

支援方針：

令和2年度の計画としてあげていた、施設の分割・個室化・利用者の移転を令和2年10月に実施することができた。移転の際には、今まで生活を共にしてきた仲間や職員との別れを惜しむ姿も見受けられた。全室個室化により、利用者それぞれが、プライベートな空間や時間を持つことができるようになったと感じる。また、コロナ禍においては感染症予防に大きな効果になっていると思われる。

ボイス西ノ京には、高齢期の利用者、身体障害と知的障害の重複障害の利用者の多くが転居した。就労能力はないが、ゆったりとした生活の中で、アート活動や散歩を通して穏やかな時間を過ごせていただけるよう支援をしている。両施設ともに、入所定員を30人へと下げたことにより、健康管理や口腔ケアにしっかりと取り組めるようになったと感じている。

また、新型コロナウイルスによる活動自粛に関して、利用者様への説明を繰り返し行う機会を設けたことで、大きな混乱もなく過ごすことが出来た。利用者様に対応する力が身についていることにも気付かされた1年であった。

オリンピックの聖火リレーは延期により、令和3年4月12日に変更となった。

人材確保と育成：

施設の移転、オープンに伴いハローワークからの申し込みが例年よりも多くなった。両施設ともに人員配置体制加算を取得できる程度に人材確保はできたが、女性スタッフの数が少ないことにより、夜勤や遅出の特定の時間帯の配置が在職スタッフの負担になっていることから、引き続き人材確保は必要である。

虐待防止の研修会や感染症対策、権利擁護の勉強会を適宜実施したが、感染症対策のため外部研修は中止や次年度に延期になったものも多くあった。

各部門の取り組み：

行事：例年行っていた施設外での家族交流を兼ねた運動会と忘年会は中止とした。

季節ごとの食事や行事は例年通り実施し、大型連休はホットケーキなどのお菓子作りをする機会を設けた。誕生日プレゼントの購入、ボイス会からのお菓子やクリスマスプレゼントの提供、3密を避けた場所への外出、施設内イベントなど趣向をこらしている

アート：活動を楽しまれる方や作品展での入賞を目指して取り組む入居者様がおり、それぞれの目的をもって取り組むことができた。今年は3名の方が作品展で入賞することができた。

委託：平日は委託作業活動、土日は休暇と生活にメリハリをつけることができたと思う。

運動：マラソンは継続して実施することができた。スポーツ大会等は本年度の参加を見送った。

音楽療法：感染症対策のため、外部からの立ち入りを制限する観点から、実施を見送った。

感染衛生委員会： 新型コロナウイルスの流行により感染対策に留意した１年でもあった。利用者様、職員の日々の健康管理を行い手洗い・うがいを徹底した。ボイス感染症マニュアルを作成し各職員に配布、感染予防に留意した。体調不良の際は休養（休暇をとる）するように対応した。マスクや手袋、消毒液等、市場の品薄状態には苦慮したが情報収集をしながら地道に感染予防用品を補充していった。ご家族にも面会・帰省・外出の自粛をお願いし、協力頂けたことも感染者０の大きな要因と思われる。

給食委員会： 外出行事ができなかったことから、利用者それぞれの嗜好に応じた献立や誕生日のリクエストメニューを実施した。

虐待防止委員会： 虐待事例１件を速やかに県に報告、職員にも即日公表し職員会議で協議した。新規職員にもボイス虐待防止マニュアルを配布し説明する等再発防止に努めた。

利用者入所状況（令和２年４月～令和３年３月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初日入所者	50	50	50	49	49	49	49	49	49	48	48	49	589
退所			1						1				2
入所											1		1
月末入所者	50	50	50	49	49	49	49	49	48	48	49	49	589

利用者の性別年齢別状況（令和３年３月３１日）

	15～20 歳	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71～80 歳	合計
男性	2	5	5	6	6	2	2	28
女性	0	3	6	4	2	3	3	21
合計	2	8	11	10	8	5	5	49

利用者の障害支援区分状況（令和３年３月３１日）

	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
男性	0	0	0	4	15	9	28
女性	0	0	0	8	8	5	21
合計	0	0	0	12	23	14	49

利用者の療育手帳所持状況（令和 3 年 3 月 31 日）

	A	B	合計
男性	26	2	28
女性	15	6	21
合計	41	8	49

利用者の身体障害者手帳状況（平成 3 年 3 月 31 日）

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合計
男性	1	1	1	1	1	0	5
女性	2	1	2	0	0	0	5
合計	3	2	3	1	1	0	10

事故件数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
5 件	3 件	8 件	0	5 件	4 件	5 件	6 件	7 件	8 件	1 件	1 件

特別養護老人ホーム リノ事業報告

稼働率：

令和2年度は、施設での看取りと病院での死亡が冬期2,3人発生した。その結果として入居の稼働率を維持するのに苦慮する事態となる。

また、コロナの影響によりショートステイでは新規入居の利用が少なく稼働率が低下したが、11月頃からは新規入居の問い合わせが増え、同時に入居者が増えることで全体的に稼働率の改善につながり現在に至っている。

特養リノ		R2年度	年間日数：365日
【入居】		【ショート】	
月間稼働率		月間稼働率（空所含む）	
R2年4月	97%	R2年4月	46%
R2年5月	95%	R2年5月	50%
R2年6月	93%	R2年6月	40%
R2年7月	98%	R2年7月	43%
R2年8月	100%	R2年8月	55%
R2年9月	98%	R2年9月	63%
R2年10月	97%	R2年10月	69%
R2年11月	95%	R2年11月	83%
R2年12月	94%	R2年12月	74%
R3年1月	94%	R3年1月	88%
R3年2月	92%	R3年2月	64%
R3年3月	94%	R3年3月	73%
*年間稼働率	96%	*年間稼働率（空所含む※）	63%
*年間利用者合計数	29746名	*年間利用者合計数	2314名

職員採用・勉強会等：

令和元年度より入社後3日以内に新人研修を開始。特養とは何か、介護者の心構えなど3時間程度おこなう。結果として離職率の低下に繋がり、特に未経験で介護の経験がないスタッフの安定がはかれた。

各種勉強会は例年と変わらず、コロナ対策を講じたうえで開催。参加者へは出席要請と確認を十分におこない、開催後のレポート提出の徹底により個々の習熟度合の把握をおこなった。

採用に関しては、派遣からの正職員への登用が主流となっている。ハローワーク、就職フェア、HPからの応募はほぼなかった。

総 評：

令和2年明けからのコロナ感染拡大により施設での備品の確保、職員・利用者の健康確認の徹底に苦慮したが、全体的には相談員などの営業努力などにより安定した運営が行えた。また、介護職員の定着に向けスキルアップすることで離職が減り、利用者の安定につながった。

看護小規模多機能型居宅介護事業所バリエ

支援目標：

外出行事については、感染症予防の観点からドライブ以外の外出行事は中止した。日常生活は、昨年度は希望に応じてリハビリ機器や散歩を実施していたが、スタッフからの声掛けや働きかけにより、日中時間帯に積極的に体を動かしていただくように支援した。介護度が下がった利用者様も中にはいらっしゃる、効果は感じられていると思われる。

地域とのつながりについても、感染予防の観点から、極力施設内への外部からの立ち入りを制限するために、1年間の中止を地域包括支援センターにお願いした。今後は、新型コロナウイルスの感染動向やその他の情報を注視しながら再開時期を模索していく必要がある。

職 員：

登録利用者の増加に伴い、人員補充が常に必要な1年であった。派遣から直接雇用へ雇い変え等で人件費は若干抑えられたものの、利用者の増減に応じて職員数を増減することは難しいことから、今後は常に通い15名に対しての人員配置を満たすように職員配置を行っていく。

訪問看護ステーションの実施に向けては、安定した事業経営を目指し、次年度に先送りとした。

研修計画：

主にOJTにより実施。感染症対策のため、複数人で集まる機会を極力避けたことと、熱発者や家族（同居者）の発熱や体調不良により、急な休みも多くあり、今後はオンラインでの研修を主として実施する必要があると感じた。

登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
2	5	5	4	3	3	5	6	6	7	7	8	8
3	4	4	4	4	3	2	2	2	2	2	2	2
4	3	3	3	3	2	3	4	4	3	3	4	4
5					1	1						
合計	13	13	12	11	11	13	14	14	14	14	16	16